



[ホーム](#) > [フォーラム/セミナーの報告](#) > [フォーラム](#)

静岡県／平成23年度医療安全管理シンポジウム(東部地区)報告

手術安全のカギはコミュニケーションにあり

[プログラム・講師プロフィール](#)

平成 23 年 11 月 22 日 (火)、社団法人静岡県病院協会主催の平成 23 年度医療安全管理シンポジウム(東部地区)を三島市生涯学習センターにて開催いたしました。今回のテーマは各地区統一で『医療安全全国共同行動・行動目標 S「安全な手術—WHOの指針の実践」』でした。

参加者は静岡県東部地区を中心に県内 20 施設、1 団体から、医師・看護師をはじめ幅広い医療従事者、薬剤師・放射線技師・臨床検査技師・理学療法士・栄養士・事務などの 139 名が参加しました。

初めに、東部地区の幹事病院として三島社会保険病院武井秀憲病院長より「医療者のコミュニケーションを築くことが、より安全な手術を実践できる」と挨拶がありました。

基調講演は東邦大学医療センター大森病院麻酔科講師、寺田享志氏を招き、「安全な手術が患者を救う—安全な手術— WHO 指針の実践」についてご講演いただきました。WHO の指針である 10 の目標に沿って、患者の立場に立ったより安全な手術を行うための、具体的な方策を解説していただきました。また、同病院の「周術期管理チーム」を紹介し、チームスタッフ間の情報交換によって患者の QOL を高めていくと述べられました。いままでは医師が中心となるチームであったが、これからは患者を中心としたスペシャリストのチームで、お互いをリスペクトし合いながらのチーム医療が望まれるとのことでした。手術チーム間のコミュニケーションを良くすることと、チームワークを育てることで患者へのリスクを最小限にし、それが患者を幸せにし、結果的に自分たちも幸せになれるとお話されました。



三島社会保険病院
武井秀憲病院長



東邦大学医療センター大森病院
寺田享志氏

次に会員病院による事例発表が 3 題報告されました。初めに富士宮市立病院中央手術室の小林和恵氏による『「WHO 安全な手術ガイドライン」に基づいた当院の現状と課題』について、WHO のガイドラインと現状を比較しながら、今後の課題であるチーム間のコミュニケーションの大切さを強調されました。

2 題目は沼津市立病院中央手術室の鈴木健太郎氏による「当院における安全な手術への取り組み」について、各医療者間の壁が大きく、医師・看護師・コメディカルが個々になっていて、なかなかチーム化するのが難しいとのことでした。

3 題目は三島社会保険病院手術室の杉崎公英氏による『「手術室の安全確保」チームコミュニケーシ

ョンの重要性』について、事例報告を交えながらチェックリストを作成することによって防げたのではないかと話し、マニュアルの整備をしていきたいとのことでした。



富士宮市立病院
小林和恵氏



沼津市立病院
鈴木健太郎氏



三島社会保険病院手術室
杉崎公英氏

講演・発表者をパネリストとした全体討議では、会場の参加者から活発な質疑応答があり、今回のテーマである「安全な手術」を行うために、医療者が真剣に取り組んでいることを痛感させられました。



全体討議



会場のようす

(報告者：三島社会保険病院 鈴木友加里)

* シンポジウムの発表の概要は「[病院の活動紹介](#)」(目標Sの項)に掲載しています。